

# 尾張地区「拡大家庭教育推進協議会」

## I 概要

- 1 日時 令和5年9月15日（金）午後1時30分～午後3時55分
- 2 会場 愛知県三の丸庁舎大会議室
- 3 参加者
  - ・協議会委員 15名
  - ・協議会委員以外の参加者 38名  
（市町家庭教育担当者17名、家庭教育推進関係者14名、尾張教育事務所職員7名） 合計53名

## II 日程・内容

- 1 開会行事 午後1時30分～午後1時45分  
優良家庭教育推進組織等顕彰  
（特定非営利活動法人 あいちかすがっこ）
- 2 春日井市の家庭教育に関わる活動紹介【基調発表】  
午後1時45分～午後2時5分

### 令和の子育て～家庭教育とは？～



春日井市を代表して、「NPO法人あいちかすがっこ」の方に発表していただきました。春日井市を軸とした家庭教育の在り方についてお話しいただき、市全体で子育て支援に取り組む様子がしっかり伝わってきました。

参加者からも「参考にした」という声が多く聞かれました。

次世代育成事業  
自分たちがつくる自分たちの街

社会や地域に関わろうとする気持ちを啓発

今日の春日井市の「豊かさ」や「暮らしやすさ」を築き上げた先人の歩みへの感謝と、先人の歩みを受け継ぎ、次代を担う責任を確認し、本市の未来をさらに良いもの、新しいものに発展させていくこと

- 3 グループ協議・情報交換等 午後2時10分～午後3時40分  
4分科会8グループの意見（抜粋）（**数**はグループ数）



### 市町家庭教育担当者としての家庭教育の推進について②

- ・行政内の各課との連携を深めていくことが必要。
- 「家庭教育」の範囲が大きいので、非常に連携が難しい。各課が何を担当しているのか各市町で把握していくことが課題。
- ・支援を必要としている方々への周知方法を工夫しなければならない。
- SNSでの配信など、保護者が情報を入手しやすい手段で配信する。学校と連携して、学校で利用している情報伝達手段を使用する。

### 子育て情報の提供方法②

#### ～すべてのママに必要な情報を届けるには～

- ・子育て世代が毎日使うツールを活用する。
- SNS やスマホアプリ等で配信していく。しかし、紙媒体の方が有効な場合（ICT 機器が不得意）もあるため、電子・紙の両媒体で配信をすることが大切。
- ・市町だけで抱え込まず子育て支援団体と連携を図っていく。
- 子育てアプリなどは更新等、変化がなければ見なくなってしまう。子育て支援団体と連携することにより、最新ニュースを提供し続ける。

### 小・中・高生への子育て支援②

#### ～思春期の子どもとの関わり方～

- ・親だけで抱え込まず、様々な大人と関わり合える場を設けることが大切。
- 思春期は、親のルールから離れていき、家庭の価値観と自分の価値観に相違が生まれる。そのため、親だけで何とかしようとするのではなく、地域ボランティアへの参加・習い事での先生との関わり・オンラインコミュニティ（危険性もある）・子どもカフェ等、様々な大人と連携を図り関わり合いながら視野を広めていくことが大切。

### 忙しいママへの子育て支援②

#### ～パパの子育てへの関わり方など～

- ・子育て家庭対象に専門家講師による講座を開催する。
- 忙しく開催の情報が届かないことが課題。土日開催、託児サービス等、参加者が集中できる環境を宣伝していくことが大切。
- ・母親が安定するための情報を提供する。
- 父親の育児参加、託児へのハードルを低くする、一人で抱え込まない（子どもは社会全体で育てるもの）など、母親の子育てへの意識を変化させるはたらきかけをする。

## 4 閉会行事

午後 3 時 45 分～午後 3 時 55 分

### Ⅲ 課題や今後の取組について

グループ協議のテーマについては、会長との事前打ち合わせの際に、大テーマを「子育て」とした。第1回尾張地区家庭教育推進協議会の場で、大テーマ「子育て」について、グループで協議したいテーマを募り、その後、どのテーマの分科会に参加したいかの希望もとって、全員が第1希望の分科会に参加できるようにした。これは、自分がどのテーマで話すのか、参加者へ事前に意識付けることもねらっている。当日の会長による基調発表を、「子育て」について春日井市の取組の紹介としたため、その結果、話したいことが明確になり、どのグループでも活発な協議が行われていた。アンケートにも、今回の会で他市町の子育ての活動について情報交換ができたことに満足する声が多く寄せられた。

今回のグループ協議の成功は、会長による見通しをもったグループ協議を充実させるための方が素晴らしかったためである。家庭教育は範囲がとても広いために、実りある協議をしてもらうためにはある程度分野を絞ることが必要である。大テーマ「子育て」の決定→子育てにまつわる「基調発表」→自分が情報を得たい、発信したいグループの事前認知、のプロセスにより、参加者がこの会で何をしたいか明確になった状態で参加できたことが活発なグループ協議となった要因であると考えられる。

大変お忙しい中、せっかく時間をつくって参加してくださっているので、これからも、参加者の立場になり、会長地区と連絡を密にし、実のある協議会となるよう執り進めていきたい。